

消火器設置のポイント

●消火器の知識

消火器の役目はあくまでも初期消火です。

消火器は適材適所へ—防火対象物は？

ひとくちに消火器といっても、すべて同じではありません。それぞれの特性により5種類に大別することができます。例えば、木や紙の火災には水系消火器が効果的ですし、油脂類の火災には粉末消火器や泡消火器が効果的です。火災の種類に応じた何種類かの消火器を併用して、適材適所の防火対策をおすすめてください。

消火器の適応種別

普通火災用



《A》普通火災

新建材、木材、紙、繊維など、固体の燃えやすいものの火災に有効。

油火災用



《B》油火災

ガソリン、シンナーなどの液体性のもの、グリスなど半固体の油脂類の火災に有効。

電気火災用



《C》電気火災

電気器具、機械類など、感電の恐れのある電気施設を含む火災に有効。



■着火物と適応消火器

火災種別	着火物	水系消火器				ガス系消火器	粉末系消火器
		強化液消火器(霧状)	ピュアウォーター消火器	機械泡(化学泡)消火器	機械泡(耐アルコール用)消火器	二酸化炭素消火器	A B C 粉末消火器
普通火災	木製品等	○	○	○	○	×	○
	紙、繊維製品等	○	○	○	○	×	△
	ふとん類	○	○	△	○	×	△
	ゴム、セルロイド類	○	○	○	○	×	△
	合成樹脂類	○	○	○	○	○	○
油火災	引火性油類等(ガソリン等)	○	×	◎	◎	○	◎
	動植物油類(天ぷら油等)	◎	×	△	△	×	○
	鉱物油類(灯油等)	○	×	○	○	○	○
	アルコール類	×	×	×	◎	○	○
電気火災	電線被覆(通電中)	○	○	×	×	◎	○

(注)◎:非常によく消火ができるもの △:完全に消火できないが、火災を抑制できるもの
○:消火できるもの ×:消火できないもの